

穂学

令和2年度

広州日本人学校 学校便り

[No. 8]

令和2年6月23日(火)

発行責任者 校長 喜屋武浩司

「研究授業：教員同士の学び合いの場」

6月も下旬となり、広州らしい蒸し暑い天気が続いています。学校の体育の授業は現在、水泳を行っておりますが、休み時間などの外活動ではWGBT（暑さ指数）を計り、必要に応じて活動の制限などを行っております。もうすぐ端午節休日となりますが、ご家庭でも体調にご留意され有意義にお過ごしください。

さて、本校では校内研究テーマを設定し、一年間を通して教員の研究と修養に取り組んでいます。今年度は、小学校で新学習指導要領が全面実施となることもあり、「確かな力を基に伝え合い、高め合い、つなぐ子を目指して」を研究テーマに校内研究をスタートさせました。研究の中心となるのは、研究授業です。研究のテーマに基づいて、一人一回自分自身の授業を全教員に公開するものです。

そのトップバッターとして、校内研究主任である尾嶋渉先生（5年担任）が算数の授業を公開しました。「体積」を扱った授業の中でも思考力・判断力・表現力が求められる「複合図形」の求め方でした。まずは、自分自身で解き方を考え、図や式、言葉などで説明をします。写真のように、自分の考え方と他の児童の考え方をロイロノートを活用して、比較したり説明したりする時間を設定することで、より良い考えを導き出そうと工夫していました。

これは、本校研究の視点「伝え合い、高め合うことができる交流の持ち方」に留意して設定された授業展開でした。授業後の授業研究では、ロイロノートの活用の工夫や具体物を使った発表の工夫などが議論されました。

また、もう一つの視点である「学びをつなげる『振り返り』の設定」では、児童自ら学びを振り返るためのキーワードや振り返りの視点の工夫などが発表されました。

今回の研究授業では、日本にいる先生方も参加して授業参観及び授業研究を行いました。遠く離れていても、参画意識をもって研究する場を引き続き大切にしていきたいと思えます。

校内研修は、研究授業に限らず様々な分野で先生方の研究と修養に取り組んでいます。以下に一部を紹介します。

- ロイロノートの活用術
- 道徳授業と評価のあり方
- 水泳授業と心肺蘇生訓練
- 思考ツールの活用術
- 深圳日本人学校との交流研修（今年は紙上研修）
- 児童生徒作文集「穂学」の書き方指導について
- 特別支援教育のあり方
- 校長講話、教頭講話
- 児童生徒理解について
- 道徳授業研究

月2回のペースで、年間28回の研修を計画しています。

広州日本人学校の子どものために、お互いの学びを継続していきます。

